

病院名	一志病院										
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決するモデルになります。										
経営方針	あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。 地域住民が信頼し、自慢できる病院をめざします。 職員の意欲と能力の向上に努めます。 継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。										
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	H27 実績値	H28 目標値	H28 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題	
顧客の 視点		プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加	家庭医療等外来受診者数(予防医療含む)	103.0人/日	113.0人/日	101.1人/日	・総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談等を含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。 ・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	・住民健診等の予防医療を含め、内科患者数が減少し、目標を達成することができなかった。	・予防医療や訪問診療など、地域住民の幅広いニーズに対応し、患者数の確保に努める。	
		地域住民が信頼し自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	入院患者の増加	一般病棟入院患者数【病床稼働率】	36.1人【78.4%】	37.0人【80.4%】	38.1人【82.8%】	・地域の関係機関との連携を強化することで、前年度を上回る入院患者を受け入れることができた。	・地域の関係機関と一層連携し、引き続き、入院ニーズに対応していく必要がある。		
		患者及び家族の満足度向上	へき地診療所等への支援	患者満足度(※)	4回	5回	4回	・へき地医療拠点病院として、診療圏外に所在する診療所等へ代診医の派遣を行う。 ・患者様アンケートを通じ、患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接客能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。	・目標値には届かなかったものの、へき地医療支援機構からの依頼にはすべて応じ、鳥羽市の離島診療所へ代診医の派遣を行った。 ・職員によるリズム体操ビデオの放送などによる待ち時間解消対策や接遇研修に取り組むことにより、患者満足度を向上させることができた。	・県内の医療過疎地域を支援できるよう、引き続き、代診医派遣等に努める。 ・患者満足度を向上させるため、引き続き、患者の皆さんの意見等を病院運営に生かしていく必要がある。	
財務の 視点		経営の健全化	収支の改善	経常収支比率	103.1%	103.5%	110.0%	・入院、外来患者数増や単価増により、収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により、収益増を図る。 ・請求漏れ対策や減点対策等に取り組み、収益増を図る。	・入院収益等の医療収益が増加したことなどから、経常収支は引き続き、黒字を確保することができた。 ・診療報酬の請求漏れや減点に対する情報を共有し、その防止を図ることができた。	・医療サービスの充実等により、入院・外来患者や住民健診等受診者の確保に努め、収益の増加につなげていくとともに、材料費や経費等の費用の削減を図り、引き続き、黒字を維持する必要がある。	
		収益の確保	費用の削減	診療報酬検討会開催回数	12回	12回	12回	・材料費、経費等の節減に努めることにより、費用減を図る。 ・職員の経営意識醸成のため、経営勉強会を開催する。	・経営勉強会を開催するなど職員一人ひとりのコスト意識を徹底し、特に診療材料費の削減を図ることができた。		
		費用の削減	材料費、経費対医療収益比率	46.3%	46.5%	42.7%	・収益増加、経費削減対策に関する職員提案を実施する。				
内部プロセスの 視点		地域に最適な医療体制の構築	関係機関・地域住民との連携強化	地域に最適な医療の体制づくり参加機関数(者)	15機関(者)	16機関(者)	16機関(者)	・「美杉・白山 保健医療福祉連携会議」の定期開催により、保健・医療・福祉の連携を図る。 ・「顔の見える会」の活動や講演会等の開催を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等への参加を推奨し、地域貢献に努める。	・地域の保健・医療・福祉の多職種による事例検討会やシンポジウムの開催などを通じて、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図った。	・地域において取り組んできた多職種が連携した活動を定着化させるとともに、地域住民の一層の参画を促進していく必要がある。	
		在宅療養の充実	訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション等延べ患者数	3,657人	3,400人	4,195人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の単価増・件数増等を図る。	・保健・福祉機関等と連携するなどし、前年度実績を上回るサービスを提供することができた。	・引き続き、在宅療養支援のニーズに応えていく必要がある。		
		総合診療医を中心とした地域医療(家庭医を中心とした地域医療)	救急医療体制の確立	救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む)	1,308人	1,000人	1,348人	・宿日直体制を維持し救急患者を受け入れる。 ・引き続き、救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	・救急ホットラインや外来ホットラインを活用し、前年度を上回る救急患者を受け入れることができた。	・引き続き、24時間365日の救急患者受入体制を維持するとともに、救急隊との合同勉強会等を通じて、搬送技術の向上に努めていく。	
		予防医療の実践	住民健診・がん検診受検者数	1,480人	1,300人	1,377人	・住民健診、がん検診等をPRするとともに積極的に実施する。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。	・健康教室等を定期的に開催し、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識の向上を通じて、目標を上回る住民健診等を実施することができた。	・引き続き、健康教室等の開催を通じて予防医療を啓発するとともに、住民健診等を実施する体制を維持する必要がある。		
		プライマリ・ケアを担う人材の育成(地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生の受入体制の充実	初期研修医・医学生受入実人数	57人	49人	68人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・総合診療医育成拠点として、初期研修医9名、医学生59名を受け入れ、前年度の受入数を上回ることができた。	・多くの研修医等を育成できるよう指導医を確保し、実践的で魅力的な研修を行っていく必要がある。	
		看護師等育成の支援	看護実習等受入率	100%	100%	100%	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ、人材育成の支援を行う。	・看護師等の養成機関と連携して、実習の依頼に100%対応することができた。	・実習生を積極的に受け入れ、実践的な研修を行うとともに、指導者の育成に努めていく。		
学習と成長の 視点		職員の意欲と能力の向上(業務改善に向けた取組)	医療従事者の能力向上	学会、研修、カンファレンス等の参加率	100%	100%	100%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。	・全職員が学会や研修会等に一度は参加することができた。	・引き続き、学会や研修会等に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。	
		業務改善の推進	夢プロジェクト開催回数	12回	12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。	・夢プロジェクト内に設けられた各戦略グループの取組状況の報告、確認等を行いつつ、業務改善を積極的に行った。	・引き続き、夢プロジェクトの活動に取り組んでいく必要がある。		
		風通しの良い職場づくり	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	—	68.0%	59.2%	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。	・夢プロジェクトの活動等を通じ、対話の促進やモチベーションの向上を図ることができた。	・すべての職員が様々な取組の充実や改善に貢献することを実感し、モチベーションをさらに向上させていく必要がある。		

※H27年度までは、「当院を親しい友人等へ紹介しますか」という設問に対する肯定的な回答割合により算出していましたが、H28年度からは、「当院の診療に満足していますか」との設問に対する肯定的な回答割合により算出しています。